

● 教室(診療科)の特色 ●

近年、腎臓病学の重要性が増してきています。日本の成人、8人に1人が慢性腎臓病患者で、これらの人々は、透析予備群のみならず、脳心血管病発症の高リスク群になることが明確に示されています。最近では、適切な時期に、適切な介入を行うことで、腎機能低下改善が可能になってきています。

腎臓の異常は、全身疾患によって出現していることが多く、腎臓のみでなく、全身を診てゆくことが要求されます。腎臓病を診察してゆくにあたって、尿、血液検査所見、さらには腎生検により得られた腎組織所見に基づく診断、治療選択、さらには水・電解質異常への対応、血圧管理、末期腎不全に対する腎代替療法と広範囲にわたる高度な知識が要求されます。当科ではこれらの要求に応え得る医師の養成を目指しています。



森 龍彦(もり たつひこ) 科長

■ 専門分野

臨床腎臓病学、高血圧

■ 職歴

平成 元年 大阪医科大学卒業

平成 9年 米国アラバマ州立大学バーミングハム校

平成24年 腎臓内科科長

■ 主な学会／専門医資格

日本内科学会／認定医、総合内科専門医、指導医、日本腎臓学会／専門医、指導医、評議員

日本高血圧学会／専門医・指導医・FJSH・評議員、日本循環器学会／専門医

■ 研究課題

腎による生体防御

● 診療科の概要・特徴 ●

大阪医科大学腎臓内科では、年間180例の入院症例があり、50件／年の腎生検を施行しています。年間外来延べ患者数は4,000人近くになりますので、これら豊富な症例を背景とした充実した研修を行うことが出来ます。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	専門領域
嶋 英昭(助教)	腎臓専門医、透析専門医	腎疾患全般、体外循環治療
大井幸昌(助教)	総合内科専門医、感染症専門医、リウマチ専門医	腎疾患全般、感染症学

■連絡先：大阪医科大学腎臓内科 TEL:072-683-1221/e-mail:tatmori@osaka-med.ac.jp
 ■ホームページ：http://www.osaka-med.ac.jp/deps/hhc/top%20page.htm

初期臨床研修プログラムの特徴

大学病院としての豊富な症例をもとに内科的腎臓疾患の診療を幅広く経験できます。わが国の慢性腎臓病患者は1,000万人以上と推定されており、腎臓病のプライマリケアの習得は、一般医として内科全般の診療技能の向上に必須です。また、腎臓病は、全身疾患と密接に関連があるので、膠原病、血液疾患、循環器、消化器疾患等を診断し、それぞれ専門の科と協力して診療に当たる機会が多いことが特徴です。

本プログラムにおいては、病棟の患者、他科からコンサルトを受けた患者を、上級医と一緒に診療し、また、週に2～3回のレクチャーを通して、検尿異常から、腎炎・ネフローゼ、腎不全、水電解質異常に対するアプローチを習得します。セミナーや他の施設との合同の症例検討会を通して、腎臓内科医がどのように診断や治療に向けてアプローチをしているのかについても学ぶことが出来ます。

研究会や学会での発表も定期的に行っており、プレゼンテーションや発表のトレーニングも自然に体得できるよう工夫している他、グループ診療かつOn-Offのはっきりした診療体制を布いています。

研修内容と到達目標

<1年目>

内科的腎疾患を幅広く担当医として受け持ち、主治医、指導医と共に診療する。到達目標は以下の通り。

- ①一般医に必要な内科的腎疾患についての基本的知識・診療技能を身につける。
- ②腎臓疾患を中心とした主要症候(尿検査異常、尿量異常、浮腫、貧血等)を経験し理解する。
- ③一般尿検査、尿化学検査の結果を理解し説明できる。
- ④腎臓と全身疾患の関わりについて理解し説明できる。
- ⑤血液透析を始めとする血液浄化療法を経験する。
- ⑥症例検討会や組織検討会などを通じてより深い知識や考察力を身につける。
- ⑦プレゼンテーションの基礎を身につける。



尿沈渣検鏡

<2年目>

より多くの症例を担当医として経験することで、診断、治療計画を立案する能力を養成する。到達目標は以下の通り。

- ①腎炎、腎不全、水電解質異常の診断と治療への理解を深める。
- ②腎生検の適応判断能力を身につける。
- ③腎病理組織の診断法を理解する。
- ④血液透析を始めとする血液浄化療法全般について、それぞれの適応を判断し経験する。
- ⑤慢性腎臓病の生活指導、食事指導、薬物治療について理解し説明できる。
- ⑥さらに希望者には専門医(後期)研修を見据えた手技、技術の習得を支援する。
- ⑦研究会や学会で自らスライドを作成し、発表することができる。



研修医 腎臓学会 発表

ローテート研修医 腎臓内科研修終了式

研修病院群

大阪医科大学附属病院

評価方法

上記到達目標それぞれについて別に定めるチェックリストに基づいて評価する。

内科研修プログラムの週間スケジュール:腎臓内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土、日曜日
午前	7:45～ 廻診 病棟、外来	7:45～ 廻診 病棟、外来	7:25～ 教授廻診、 通常廻診 病棟、外来	7:45～ 廻診 10:30～ 酵素補充療法 (月2回) 病棟、外来	7:45～ 廻診 病棟、外来	9:00～ 廻診 病棟
午後	病棟、外来	12:00～ 薬剤説明会 (78病棟カンファ室) 14:00～ レクチャー 15:00～ 病理組織検討会 セミナー、抄読会 19:00～ 合同症例カンファ レンス(高槻病院腎臓内科、 大阪医大腎泌尿器科) (2か月に1回)	13:00～ 酵素補充療法 (月2回) 14:00～ カンファレンス (症例検討会) 科長会開催日の第1水曜は 13:30～ 病棟、外来 セミナー	13:30～ 腎生検 病棟、外来	病棟、外来 セミナー	15:00～ みゅーず たかつき腎せみなー (年4回)

(外来は、初診担当。上級医と共に診療を行う)

後期研修プログラムの特徴

一般医として必要な基本的事項を学ぶ初期研修とは異なり、専門医になることを前提とした内容にレベルアップします。上級医と連携し十分な議論のもとに診断・治療にあたることにかわりはありませんが、初期研修ではともすれば受け身となり上級医に指示された業務をこなすだけに終わることもあるので、後期研修では主治医として主体性をもって取り組むことを求めます。すなわち個々の診療において主治医としての裁量を最大限に認める方針とし、腎生検などの観血的手技は上級医の指導のもと、極力、自ら実践し習得してもらいます。他科よりのコンサルト、初診患者の外來診察を上級医と共に行ってもらいます。

研修プログラム

<3年目～4年目における研修方法>

プログラム指導責任者:科長 森 龍彦

- ①腎臓内科入院患者を主治医として受け持ち、上級医の指導のもとに診療する。
- ②内科的腎疾患全般について、病態を把握し診断・治療計画を立てる。
- ③腎生検の適応を判断し、超音波穿刺法・組織診断を習得する。
- ④各疾患に対する薬物療法、血液浄化療法などの適応について自分で判断できる。
- ⑤各検査・治療に際し患者への説明を行い、同意を得ることができる。
- ⑥経験した症例から発表の意義のあるものを選び学会発表し、上級医の指導のもと論文投稿を行う。
- ⑦日常臨床から生じた疑問をクリニカルクエストンとして提示できる。



腎生検

研修内容と到達目標

到達目標は、日本腎臓学会の腎臓専門医研修カリキュラム(日本腎臓学会誌44巻2号に掲載)のうち内科系腎臓専門医対象のものとする。各学会とも専門医資格申請には一定の経験症例の報告を義務付けているため、これらが不足なく経験できるよう配慮する。

プログラムに参加する医療機関等

新内科専門医プログラム参照

取得できる認定医・専門医

日本内科学会内科専門医、日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医、日本高血圧学会専門医

主な関連病院

過去に派遣実績のある施設

国立病院機構大阪医療センター／兵庫県立西宮病院
大手前病院／兵庫医科大学病院／市立豊中病院
大阪市立総合医療センター／信楽園病院／大阪大学／三康病院
吉田病院／大野記念病院／ハーバータウンクリニック
新潟大学／曽根病院／三康クリニック／蘇生会病院

教育、研究協力施設

国立循環器病研究センター 高血圧・腎臓科
神戸市立医療センター中央市民病院 腎臓内科
島根医科大学 腎臓内科
香川大学医学部 薬理学教室
大阪薬科大学 病態分子薬理学教室

MUSE TAKATSUKI NEPHROLOGIST GROUP

大阪医科大学附属病院 腎臓内科では、このグループを立ち上げて活動を行っています。

スローガン：元気の素の腎臓をサポート

ミッション：腎臓に関する臨床や研究へのワクワク感をレジデント、研修医、学生やパラメディカルと共有する

目標：腎臓内科医として社会に貢献する。

腎臓疾患のよりよい治療を行うことを目指す

腎臓に対してワクワクと興味を持てる医師、学生を増やす

腎臓内科専門医を育成

腎臓疾患治療に対し、情報を共有し、治癒を目指し、一緒に

歩いて行ける患者、医師、パラメディカルの集団を形成する

一般の人々の腎臓への関心を引き出す

対象：学位または専門医取得前医師、レジデント、研修医、医学生
地区の医師、パラメディカル

臨床スキルアップ

腎セミナー

研修医を対象に随時(ドトールセミナー)(ドセミ)(週1～2回)

腎臓内科セミナー(火曜日 (カセミ))

抄読会 (Journal Club)

他施設腎臓内科との合同症例検討会(高槻病院腎臓内科、三康病院腎臓内科、他。大阪医大78病棟カンファレンスルームにて)(2ヶ月に1回)

みゆーずたかつき腎せみなー(他施設より講師招聘。研修医、学生向けセミナー)(4ヶ月に1回)

第1回 2013/11/16、第2回 2014/3/8、第3回 2014/6/7、

第4回 2014/9/27、第5回 2014/11/29、第6回 2015/2/7、

第7回 2015/5/9、第8回 2015/9/26、第9回 2015/11/14

第10回 2016/2/7



みゆーすたかつき腎せみなー

カンファレンス

- 腎臓内科朝廻診（毎朝）
- 腎臓内科昼飯症例カンファレンス（昼食時）
- 腎臓内科入院症例検討会（水曜日 ラウンド カンファレンス）
- 腎生検組織検討会（毎週）
- 腎臓内科外来症例検討会（随時）
- 腎臓内科他科よりコンサルト症例検討会（随時）
- 腎不全症例検討会（腎泌尿器科、血液浄化センター、パラメディカルと月二回）

臨床サポート

他科よりのコンサルト対応

- 院内
- 院外

地域連携

- 地区医師との勉強会（2014年より当院研修医も参加）
- 生活習慣病セミナー（2003/4/26-毎年1～2回開催
2016年は第16回を予定）
- CKDスキルアップセミナー（2008/3/1-毎年1～2回
開催 2016年は第11回を予定）

地域連携バス

キャリアサポート

臨床研究

- セミナー発表、カンファレンス発表、学会発表サポート
- 論文作成サポート、抄読会

基礎研究

- 他施設との共同研究
- 大阪薬科大学病態分子薬理学教室
- 香川大学 薬理学教室

セミナー

- 抄読会、他施設より講師招聘

カンファレンス

- 月曜 研究ミーティング

学会発表サポート

- 論文作成サポート

医学生サポート

- 国試対策（腎臓内科分野）
- 国試問題の解説会

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

日常診療から生じる疑問点をクリニカルクエストとして提示し、先行研究の探索を行って基礎あるいは臨床研究実施計画を立案出来るように指導します。

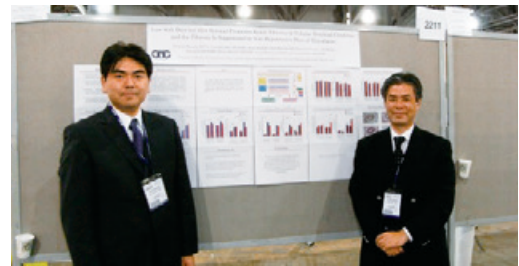
また、データベース作成から解析を含む研究基盤づくりについても1から指導します。

現在の研究テーマ概要

基礎研究

腎臓を護ることの重要性を解明すべく、研究を進めています。現在までに行ってきたのは、

- ①心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の心血管保護効果
- ②減塩に伴う血漿アルドステロン上昇が心筋構築に及ぼす効果について
- ③T/L型カルシウム受容体拮抗薬であるエホニジピンの心、腎保護効果
- ④尿細管障害モデルへの著明な減塩が腎や心と与える影響
- ⑤著明な減塩が造影剤腎症発症に与える影響
- ⑥近位尿細管障害、心血管病、交感神経系の連関についてなど。



院生 米国腎臓病学会発表(フィラデルフィア)

臨床研究

- ①CKDにおける無症候性脳血管障害の検討
- ②維持血液透析患者における健康診断項目の実態調査
- ③維持透析におけるリン吸着剤の変薬効果の検討
- ④透析データベースによる診療活用とその効果
- ⑤腎生検病理組織像と臨床検査の比較検討
- ⑥保存期腎不全における早期高リン血症介入効果の検討
- ⑦急激な塩分制限が生体に及ぼす影響の検討など。

※上記の一部は研究準備段階のものを含みます

基礎研究、臨床研究ともに研究結果は、海外を含む多くの学会(米国腎臓病、米国高血圧、米国心臓病、欧州腎臓、欧州心臓病、日本内科、日本腎臓、日本透析、日本高血圧、日本循環器等)、論文にて報告しています。



保存期腎不全チーム会 忘年会